

Club Je Pense

2019年11月講義

世界とは何か

あなたは
「世界」とは何だと考えますか？

「世界陸上」「世界大会」などで使われる
地球上に存在する全ての国家の総称
と答えるかもしれません

あるいは

自分が認識している世の中のこと全て
と答えるかもしれません

私たちが

この「世界」に生きていくこと自体は
疑いようがないでしょう

では
「世界」とは何でしょう？

「狭い世界しか知らない人」

「世界が広がる体験」

「新しい世界に飛び込んでみる」

「圧倒的な世界観」

などなど

「世界」という言葉は頻繁に使われます

今月は

当たり前のように使っている

「世界」について考えてみましょう

形而上学が主張する「世界」

形而上学とは

現実の世界がどのように存在しているかを

私たち（観察者）は無視して

論理的に説明しようとする考え方

例えば…

山田さんが静岡市から富士山を見ている時
私とあなたは新宿から富士山を見ているとします

この話において
形而上学的に存在している現実の対象は

「富士山」

のみです

誰がどこからどう見ようが
この世界に存在するのは
「富士山」のみという考え方

それに対して

ポストモダン（構築主義）
が主張する「世界」

構築主義とは

事実それ自体は存在せず

私たち自身の言説や科学的な手段が

幾重にも層をなして重なり合い

一切の事実を構築しているとい考え方

私たちは何かを認識する時
それ自体を直接的に認識することはできず
常に人間によって手を加えられた手段により
初めて認識することができる

色彩を例にとると…

そもそもこの世界に色彩などなく
視覚器官に届いた特定の光の波長に過ぎず
物体自体は無色な粒子の集まり

というのが形而上学的主張

構築主義の視点では

無色のリンゴなど現実には存在せず
あなたにとっての真っ赤なリンゴや
私にとっての朱色っぽいリンゴなど
犬についてのモノクロのリンゴなど
それぞれにとっての色彩がある

先程の富士山の例で言うと

山田さんが静岡市から富士山を見ている時
私とあなたは新宿から富士山を見ているとします

この話において
構築主義的に存在している対象は

「山田さんにとっての富士山」

「あなたにとっての富士山」

「私にとっての富士山」

です

誰に対しても普遍的な
対象としての富士山など存在せず
この世界に存在するのは
「それぞれにとっての富士山」
だけという考え方

ポストモダン以後（新しい実在論）
が主張する「世界」



マルクス・ガブリエル (1980年～)
ドイツの哲学者・ボン大学教授

新実在論の視点で考えると

山田さんが静岡市から富士山を見ている時
私とあなたは新宿から富士山を見ているとします

この話において
新実在論的に存在している対象は

「富士山」

「山田さんにとっての富士山」

「あなたにとっての富士山」

「私にとっての富士山」

です

この世界は
「観察者のいない世界」だけでもなく
「観察者にとってだけの世界」だけでもなく
その両方が存在する

新実在論では

可視化・分析・解剖できるものだけでなく

夢・妄想・想像上の生物・未来・意志

など全てが存在すると考えます

例えば

「ペガサスは存在するか？」

と問われれば

一般的には

「空想上の生き物なので存在しない」

と答えるでしょう

しかし
新実在論では

「空想上の生き物として存在する」

と考えるわけですよ

今までは存在しないと思われていた
あらゆる物事が存在すると考えるわけです

逆に
新実在論では

「世界」は存在しない

と考えます

そして

「世界」以外のあらゆる物事は存在する

なぜ

世界は存在しないのか？

その前に

存在するとはどういうことか？

目の前にあり観たり触ったりして
確かめられることが
存在するということでしょうか？

もしそうだとしたら
友情は存在しないですか？

もしそうだとしたら
電波は存在しないですか？

もしそうだとしたら
安倍首相は存在しないですか？

存在するということを言語化することは
意外と難しいかもしれません

存在するとは…

何らかの意味の場（領域）に現象すること

例えば

宇宙と世界ではどちらが大きい？

宇宙は自然科学という意味の場では
地球上100 k m以上の空間

あるいは

宇宙はスピリチュアルという意味の場では
意志ある強大なエネルギーだったり

他にも

可愛がるは

家庭という意味の場では
愛情や優しさを行動で示すこと

しかし

可愛がるは

相撲部屋という意味の場では
いじめることかもしれません

意味の場があることで
意味を持って現象することができる

そして

世界とは全ての意味の場の意味の場

様々な意味の場という
小世界が集まっているのが世界

世界は全ての小世界を支える
最後の意味の場なので
世界そのものを支える意味の場はない

意味の場に現象しない以上
存在の定義に当てはまらないため
世界は存在しない

誤解を承知で簡略化して説明すると

私たちは東京大学そのものを見ることが出来るか？

「東京大学の安田講堂」は見ることができます



「東京大学の赤門」は見ることができます



「東京大学の図書館」は見ることができます



「東京大学の教室」は見ることができます



これらは全て

「東京大学」という意味の場に現象しています

でも

東京大学自体を見ることができません

もちろん

東京大学も大学や学習機関という
意味の場に現象していますので
見えなくても存在はしています

それと似たような感覚で
世界という意味の場の意味の場には
世界以外のあらゆる物事が存在するが
それらを支える世界は存在しない

変えられるのは存在しない世界ではなく
世界という意味の場に存在する
小世界という意味の場

私たちは意識的・無意識的に
様々な意味の場に属している

自分の理想を実現するために

自分が関係する小世界を把握し

かつ

小世界を明確に定義する

あなたはどんな小世界で生きていて
その小世界をどう変えていきますか？

誰かが定義した小世界で生きるのと
自分で小世界を再定義するのでは
どちらが自分の理想の人生になるでしょうか？

様々なマインドセットや
人間関係のスキルなど以前に
私たちが現象している意味の場である
小世界を変えていきましょう

ご静聴ありがとうございます

ワーク

あなたにとっての「小世界」を
再定義して言語化しましょう

お題その1

家庭とは

一般的な定義は

夫婦・親子などが生活を共にする小集団

あなた独自の「家庭」の定義とは？

お題その2

夫婦とは

一般的な定義は

適法の婚姻をした男性と女性

あなた独自の「夫婦」の定義とは？

お題その3

実社会とは

一般的な定義は

美化されたり観念的に考えられたものではない
実際の現実社会

あなた独自の「実社会」の定義とは？

お題その4

ビジネスとは

一般的な定義は

経済行為

あなた独自の「ビジネス」の定義とは？